写真で見る

まちの話題

= TOWN TOPICS =

赤谷の森で取り組む生物多様性の保全活動

世代をつないで守るイヌワシの森

生物多様性の保全や復元、地域づくりを目的とした赤谷プロジェクトの一環として、若い世代による「イヌワシの森づくり」が進められています。

赤谷の森では、イヌワシの狩り場環境向上を目的とした除伐作業後、大学生の林真子さんがミズナラの苗木を植樹しました。林さんは新治小学校在学時から活動に参加しており、イヌワシが生息できるドングリの森の再生を目指しています。

また、新治小学校６年生の村山允紀さんは赤谷プロジェクト主催のイヌワシ観察会に参加し、イヌワシやクマタカを観察しました。観察会には、長年にわたり森づくり活動に取り組んでいる新治小学校出身の大学生、石飛樹さんとクレイグ翔音さんが同行しました。観察会の様子や新治小学校の「赤谷の森学習」はポスターにまとめられ、群馬県立自然史博物館で発表されました。赤谷の森では、小学生から大学生まで世代を超えた森づくりが続けられています。

▲植樹する林真子さん

▲観察する村山允紀さん

▲クレイグ翔音さん（左）石飛樹さん（右）

親から子へ、子から孫へと100年かけて「イヌワシの住める森」をつくるため、未来を担う地元のこどもたちが、みなかみユネスコエコパークの「豊かな生物多様性の森づくり」に挑戦してくれています。豊かな森は水害を防ぎ、飲み水を作り、地球温暖化を防ぎ、わたしたちの命を守ってくれます。

歴史と思い出がたくさん詰まった学び舎とお別れ

月夜野地区の小学校で閉校式が行われました　２月

古馬牧小学校・桃野小学校・月夜野北小学校が月夜野小学校に統合されることに伴い、各小学校では２月に閉校式が行われました。児童代表による別れの言葉、校歌斉唱に続き、児童が長い年月の間受け継いできた「校旗」の返納が行われました。

古馬牧小学校は、明治７年に設立された徒渉小学校に始まり、昭和30年には合併により月夜野町立古馬牧小学校が開校、さらに平成17年の合併に伴いみなかみ町立古馬牧小学校が開校し、71年の歴史に幕を下ろしました。

桃野小学校の歴史も古く、明治７年に嶽林寺に大峰小学校が開校されたことが始まりとされ、昭和30年には合併により月夜野町立桃野小学校が開校、平成17年の合併によりみなかみ町立桃野小学校の開校を経て、現在に至るまで長い年月を重ねてきました。

月夜野北小学校は、昭和39年に上牧小学校と小倉小学校が統合して月夜野町立北小学校が開校、平成17年には合併によりみなかみ町立月夜野北小学校が誕生、長年にわたり地域の方々とともに歩んできました。

▲月夜野北小学校　児童代表による別れの言葉

▲桃野小学校　校歌斉唱

▲古馬牧小学校　校旗返納

里山で春の風物詩を巡る

たくみの里つるし雛　3/1～3/31

道の駅たくみの里や周辺の体験施設などを会場として「第16回 たくみの里つるし雛」が開催されました。訪れた方々は、里山の春を感じながら、各会場に飾られた可憐なつるし雛を巡りました。

道の駅たくみの里、モギトーレや遊神館では、豪華な雛段飾りが展示されたほか、各会場では干支をはじめ、健康・長寿の願いを込めた野菜や動物のつるし雛が数多く並び、明治・大正時代の古布を使用した作品も展示されました。

また、イベント期間中の各会場では、割引やプレゼントの特典、スタンプラリーも実施されました。

▲ますや－鉄工舎－

▲道の駅たくみの里体験道場

▲革細工の家KURO

▲和紙の家

冬のみなかみ町で、心落ち着く幻想的な夜

かがよふあかり竹灯籠　2/17～3/8

手作りの竹灯籠がたくみの里 熊野神社を彩る「第７回かがよふあかり竹灯籠」が開催されました。境内では、竹灯籠の無数の穴から漏れる光が幾何学模様や草花を映し出し、幻想的な空間が創出されました。

このイベントは、竹林整備と地域活性化を目的としたイベントで、みなかみ町を主とした北毛地域の竹が活用されました。また、竹灯籠は地域住民や福祉事業所の利用者、こどもたちが手作業で製作し、来場者へ癒やしの時間が提供されました。

イベント初日の点灯式には、地元有志による豚汁の振る舞いが行われたほか、でんでこ座三国太鼓による力強い演奏も披露され、会場は大いに賑わいました。

▲でんでこ座三国太鼓 和太鼓演奏

▲夕暮れを背景に柔らかく灯る

▲来場者で賑わう境内

▲豚汁

写真で見る

まちの話題

= TOWN TOPICS =

太田市の歴史と文化、魅力と熱量を体感する

おおた魅力再発見バスツアー 3/14

太田市とみなかみ町の交流事業として、町民を対象にバスツアーを開催しました。大光院や金龍寺、史跡金山城跡ガイダンス施設を巡り、歴史ガイドの説明を通じて地域の成り立ちへの理解を深めました。

午後は群馬クレインサンダーズの試合観戦で、迫力ある演出と熱戦に会場が一体となって盛り上がりました。また、太田市の穂積市長が客席を訪問してくださり、参加者全員で感謝の意を伝えることができました。

今回のバスツアーを通して、太田市の歴史と産業、地域で一体となった賑わいを実感することができ、今後の相互交流の深化が期待される機会となりました。

▲史跡金山城跡ガイダンス施設

▲群馬クレインサンダーズの試合を観戦

▲穂積市長

▲大光院

芝 洋二郎の

みなかみアクアディスカバリー

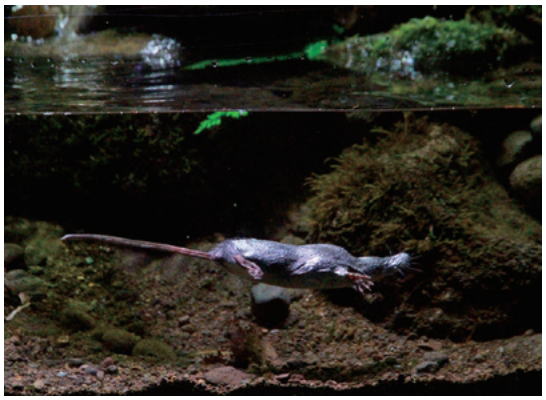
＃3水生生物調査の結果【ほ乳類】

今回から、調査結果についてお話していきます。まず初めはほ乳類についてです。残念ながら、調査で水生のほ乳類に遭遇したことはありません。

そもそも、なにを水生ほ乳類とするかの基準もあいまいな状態ですが、注目しているほ乳類がいます。「カワネズミ」です。名前の通り渓流周辺に生息するほ乳類で、銀色に輝く毛皮から「ギンネズミ」とも呼ばれています。

「ネズミ」と名前がついていますが実はモグラに近い仲間で、水生昆虫や小魚・サワガニ・カワニナなどを食べて暮らしています。尻尾を合わせても20cmほどと小さく、条件さえ整えば飼育展示も決して夢ではない種類です。

水産学習館には目玉となる水生生物がおらず、なにか良い種類はいないかといつも考えています。カワネズミは飼育や展示の実績がある水族館・動物園が存在するため、目玉の候補になりそうです。



▲泳ぐカワネズミ
(写真提供：アクアマリンいなわしろカワセミ水族館)

町内果樹農家が各部門で健闘

群馬県果実品評会で金賞 3/10

令和７年度群馬県果実品評会の表彰式がJAビルにおいて行われ、町内ではりんご部門において、みなかみフルーツランドの関洋介さんが金賞（ぐんま名月）、月夜野りんご栽培部会の高橋市郎さんが金賞（ふじ）を受賞されました。

このほか、高橋茂美さんと高橋綾香さんが銀賞、深津貴行さんと高橋佑依さんが銅賞を受賞されました。

▲関洋介さん

▲高橋市郎さん

細やかで精度の高い統計調査を評価

小野宏美さんが大臣表彰 10/18

農林水産省が所管する農林業センサスにおいて、農林行政施策の基礎資料整備に寄与された功績が認められ、小野宏美さん（上牧）が農林水産大臣表彰を受賞しました。

受賞された小野さんは、国勢調査などの統計調査に複数回従事されています。2025年農林業センサスにおいては、細やかで精度の高い調査が評価され、今回の受賞につながりました。

▲小野宏美さん

群馬県トラック協会沼田支部×利根郡町村

災害時の物流体制等支援で協定 2/18

利根郡の各町村と群馬県トラック協会沼田支部との、「災害時における物流に係る協力に関する協定」が締結されました。締結式には、阿部町長をはじめ、同支部から佐藤支部長らが出席し、互いに署名のうえ協定書を交わしました。

この協定は、大規模災害が発生した際、避難所等への救援物資の輸送や人員の派遣、資材・機材の提供などが主な内容となっています。

▲協定書を交わす利根郡町村の首長と佐藤支部長

利根沼田広域消防×みなかみ町消防団

林野火災に備えて合同訓練 3/8

全国各地で多発している林野火災に備え、利根沼田広域消防とみなかみ町消防団が合同訓練を行いました。訓練当日は、月夜野総合公園ふれあい広場（ヘリポート）にて、ヘリコプターの離着陸に伴う安全管理や給水要領の確認を行いました。

みなかみ町消防団では、今後も災害対応力向上に向け、防災関係機関との連携を強化していきます。

▲防災ヘリに給水する想定で放水

みなかみ町に移住して、一緒に町を元気にする仲間！

地域おこし協力隊って知っていますか？

＼全国で隊員数は10,000人に！／

テレビやニュースなどで、「地域おこし協力隊」という言葉を耳にしたことはありませんか？

「地域おこし協力隊」は、都市部など町の外から人材を受け入れ、地域の活性化に取り組んでもらう国（総務省）の制度です。
任期はおおむね1年から3年。観光のPR、農業や林業の支援などのほか、地域の課題と隊員の得意分野を活かして活動します。

みなかみ町では、現在10名の隊員が活動していて、これまで30名を超える協力隊員が活動してきました。
任期後にそのまま町に定住し、起業したり、仕事を続けたりしている人もいます。つまり協力隊は、「一時的なお手伝い」ではなく、元気なみなかみ町のこれからを一緒につくる仲間でもあります。

「地域おこし協力隊」は皆さんの身近な場所でいつも活動しています。協力隊を見かけたら、ぜひ気軽に声をかけてみてください！ 知らないこと、初めてのことが多い中で頑張っている隊員はとても勇気づけられます。「地域おこし」は町民みんなで取り組むもの。一緒にみなかみ町を盛り上げていきましょう！

広報みなかみでは、活動中の地域おこし協力隊員の活動レポートを毎月掲載しています！

まちづくり協議会だより 第82号

問 まちづくり協議会事務局（企画課）
0278（25）5030

まちづくり活動協議会で勉強会を行いました

「高齢化でまちづくりの担い手が不足している」「自分たちの活動をどう発展させていくべきか」まちづくり協議会は活動開始から15年以上が経過し、高齢化や人口減少による担い手不足という課題に直面しています。この課題に向き合うため、昨年10月から11月にかけて、高崎経済大学の櫻井常矢教授を講師に招き、勉強会を開催しました。

「まちづくり」とは誰がどのようなプロセスで行うのか、地域課題をどのように見つけるのかなど、基本的な考え方から他市区町村の実例まで多くの学びがありました。

参加者からは「地域の課題について、さまざまな世代の方と意見交換したい」「今後もこうした勉強会の機会をつくってほしい」といった声が多く寄せられ、活発な会となりました。これまでまちづくり協議会のメンバーが築いてきた地域力と経験を活かしながら、町の実情に合ったまちづくりを学ぶことで、地域の課題解決につながる活動を進めていきたいと思います。